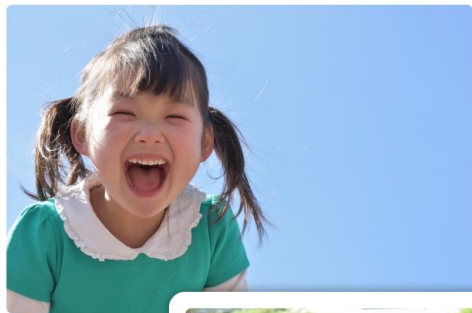




生協の物流を使って東北6県に広がる、
被災地だからこそ出来る
災害用備蓄品の有効活用



コープフードバンクの目的

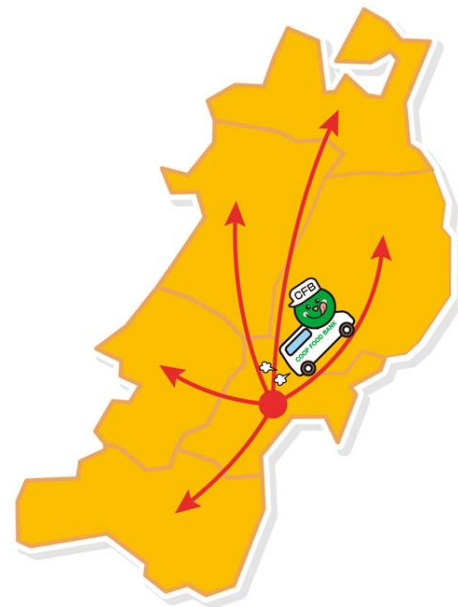
- 食品を取り扱う事業体として「食品ロスの削減」し、食品を有効活用します。
- 誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを目指します。



コープフードバンクは東北全体へ広がりました。

■コープ東北サンネット事業連合の物流をはじめとする機能を活かしてフードバンク活動を東北6県9生協で取り組みがはじまりました。

このことにより、まだ行き届いていない地域にも食料品などをお渡しできる仕組みが整いました。



これまで食品を提供している施設・団体等

施設からお礼の手紙を頂戴することもあります。
それを提供していただいた企業にもお届けしています。

- 児童養護施設
- 児童福祉施設
- DV被害者シェルター施設
- 路上生活者支援団体
- 生活困窮者支援団体
- 障がい者施設支援団体
- 社会福祉協議会
- 被災者支援団体 等



2017年1月20日現在279施設・団体と提携

自治体との協力

信頼関係が一番

市民の大切な税金で用意した物を有効活用してくださるところを探していました。COOPなら安心して、お任せできる。」と気仙沼市の菅原市長

復興住宅での孤立をなくすため支援の協力をお願いします。地域に根差して活動している生協からの支援は、安心。」と石巻市亀山市長



石巻市様

石巻市と協定締結
自治体との連携は2件目



気仙沼市様

震災後、災害備蓄品を
フードバンクに寄贈



企業の方もボランティアに参加

お取引先企業の方々も仕訳作業や施設への配送などボランティアに参加していただきます。自分たちが提供した物が、どのように活用されるのか確認の意味も含め、取り組んでいただいています。「職員のモチベーションが上がり、大変良い経験をさせていただきました。企業がやろうと思ってもなかなか出来ないので、生協さんにやってもらえて安心しました。」というお声も企業の方から頂戴しています。



社会福祉協議会との連携

コープフードバンクでは、公平性や見極めが難しいので、直接個人の方へ食料品等をお渡しすることはありません。そのため、社協や行政・支援団体等と連携し、困窮者の方へ食料品等提供させていただいています。

東北6県で、131社協と締結

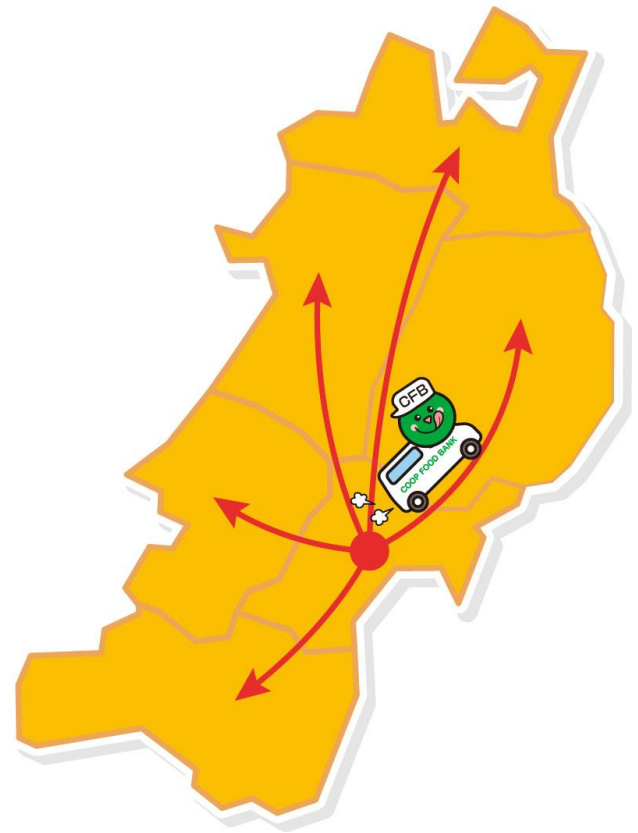
- 青森県：42社協（全県）
- 秋田県：3社協＋福祉事務所
- 岩手県：6社協
- 山形県：10社協＋福祉事務所
- 宮城県：17社協
- 福島県：53社協（県内全ての46町村＋市）

生協の既存の物流を利用

毎日、みやぎから東北6県9生協
の宅配センターに、物流が動いてい
ます。

この物流を利用して各県の施設・
団体へ提供を行っています。

これが生協の強みとなっています。



災害用備蓄品の提供

東日本大震災より6年が経とうとしていますが、多くの企業や大学などで、備えていた備蓄品の買い替え時期となり、「震災を経験している者として、当時の事を考えると、これまで職員などにただ渡していたけれど、有効活用していただけたところがあれば是非活用していただきたい」との思いから提供していただく団体が増えました。



提供先へ受け取りに行きます

どうしても配送が困難なところへはコープフードバンク専用の配送車で品物をいただきにあがります。



これまでの受け入れ量

(2016年度については、2017年1月20日現在)



災害用備蓄品の受け入れ量



今後の課題と展望

- フードバンクに食料品等ご提供してくださる企業は、まだまだ少ないのが現状です。
- 東北6県に広がったこの取組を生かし、東北6県の地元企業様から気軽にご提供いただけるよう、今後は配送の帰りの便を活用していきたいと考えています。
- 誰もが安心して暮らせる地域社会づくりの取り組みに努めてまいります。